

産業経済委員会管内視察報告書

以下のとおり視察の報告をいたします。

1 委員会名及び視察者名

◆産業経済委員会

◆視察者

委員長：筒井 紀夫

副委員長：成合 円美佳

委員：杉村 義秀、長友 潤治、川内 賢幸、楠見千穂子、坂元 唱子

2 視察先・テーマ及び日時

日 時：令和7年8月12日（火） 13：30～15：30

視 察 先：高崎一般廃棄物最終処分場

調査事項：最終処分場の環境整備及び維持管理等に関する事項について

3 視察の内容

高崎一般廃棄物最終処分場の現状を確認し、市環境施設課より課題等についての説明を受けた。

4 委員感想等（別紙添付）

産業経済委員会行政視察報告書（感想等）
※委員ごとに作成し報告書に添付

委員名 筒井 紀夫

1 視察の感想

- ・ 15年管理していくなかで、その後をどのように管理していくのか検討されていない
- ・ 毎年気温が上昇している状況で室内空調の整備が必要となっていくだろう
- ・ 幅広い年齢層の協議体を作って検討されるべきだ
- ・ まずは高崎地区全体で検討すべき課題である

2 視察の成果及び本市議会への反映等

室内競技場（フットサル・テニスコート・ミニバレー）が着工されているが、今後は気温の上昇が続けば、空調設備が必要となってくる可能性があり、大きな予算を必要とする。

産業経済委員会行政視察報告書

委員名 成合円美佳

1 視察の感想

令和 2 年 6 月に埋立が終了した高崎最終処分場。もともとは谷であったそうで、一般ゴミとされる一般廃棄物の焼却灰や燃え残った物質が、南北に長い屋根のある倉庫内に被覆型で埋められている。事業系ゴミは産業廃棄物になり、その埋立地は県の管理で別にある。15 年の水処理が必要で、水道水を天井から一定量散布することで、酸素と水によって微生物を発生させて処理している。透過した水は施設の末端にある処理施設で薬を透過し浄化してから、川に流している。志和池の処分場と比べ、規模は 10 分の 1 であり、小規模施設なので、他の処理施設と比べ、学校などから学習機会としての依頼は受けることもなかった。基本的にゴミの処分場などの施設を建てる時は、あまり喜ばれる施設ではないので、代わりと言ってはなんだが、公園やパークゴルフ場などが整備される。高崎最終処分場も、水処理が終了した一部が、テニスやフットサルができる屋内スポーツ施設が整備される。令和 8 年 4 月には完成予定ということで、これまで、年 1 回、地元の 3 自治公民館（原村、あさひ地区、高村地区）と協議会を開いてきており、意見を反映させた形であるという。維持管理は民間の清掃公社に委託しており、市の職員が訪れるのは何かあった時で、月 1 回程度であるそう。

最も気になったのは、暑さである。まるでサウナのようであった。スポーツ施設にすることだが、夏は使えるような気がしなかった。執行部としては、窓を開ければ風が通るということで、ミストや扇風機の配備はするが、冷房は設置の予定はないとのことだった。

2 視察の成果及び市政への反映等

暑さ対策については、利用者との協議は行っていたとしても、おそらく、現場で話

し合っているわけではないので、この暑さを理解されていないのではないのかとも懸念する。地球温暖化で今後、利用者からの意見や実態を見て、エアコン設置は検討すべきだと、委員会でも注視しておきたい。また、視察中の質問でも述べたが、地域融和型最終処分場を目指しているという割に、地域の方からこの施設が十分に知られているわけではないことが分かった。親しまれる施設になるよう、地元自治公民館だけでなく、学校や保育園等にも利用の呼びかけを行うべきだと考える。利用開始後、地域に融和した施設になっているか、利用状況など、委員会でも注視していきたい。

最後に、視察に行ったことを市民の方へ、SNSで報告したところ、地元の高崎町商工会の方から、自分たちの意見も聞いてほしかったなどとのダイレクトメッセージをいただいたので、施設整備への協議が十分であったのかは、少し疑問が残った。

産業経済委員会行政視察報告書（感想等）

※委員ごとに作成し報告書に添付

委員名

村中義秀

1 視察の感想

大まかに建案物であり、今後どのような
対応、対処すべきかが考えらるべきである
やはり地元・市民に同じような決への
理解・利用も含めて検討が必要である

同様であれば処分処分決
利用・利用の促進である

2 視察の成果及び本市議会への反映等

合併後20年とあってこれほどの成果と
しては、合併前にある処で合併しておくと
であった（高松市側から）
また、思えば、合併の負の遺産である

合併後には運送関係や他の二次利用
目的での処置が必要である
民間への譲渡である

次に検討するべきである

都城市議会産業経済委員会管内視察報告書

進政会 長友潤治

※「クリーンコアたかざき」最終処分場視察について

【1. 施設の概要】

当該施設は令和 2 年に埋め立てが完了している。現在は、土の中の水や空気の状態を安定させるため、一定期間は散水や浸出水の処理を続ける必要がある。施設は屋根と壁で覆われ、雨が入りにくく、ごみが舞い上がらない仕組みになっている。においは強くないが、ときどき灰のようなにおいを感じる場面もあった。日々の運転は民間の会社が担い、市の職員は定期的に点検に訪れている。

【2. エリア別の現状】

この施設には大きく二つのエリアがある。ひとつは長さ 50 メートルほどの区画で、人工芝を敷いた屋内スポーツ施設への転用が進んでいる。テニスやフットサル、ミニバレーなどに対応し、令和 8 年 4 月の利用開始を目指している。近隣の三つの公民館と年 1 回の協議を行い、地域の要望を取り入れている。もうひとつは長さ 340 メートルほどの広い区画で、こちらは現時点で明確な用途が定まっていない。散水の継続や荷重の制限などの条件があるため、利用方法は慎重な検討が必要である。ただし、広さと長さという特性を生かせば、低い負荷での活用余地はあると考える。

【3. 視察で見えた課題（暑さ）】

多くの委員が共通して指摘したのは、夏季の暑さが非常に厳しい点である。内部は「サウナのような」との声もあり、このままでは夏期の長時間利用に支障が出るおそれがある。現時点の計画では、窓の開放、ミスト、大型扇風機で対処する方針だが、十分かどうかは不透明だ。熱中症を防ぐには、安全を最優先にした対策が求められる。

【4. 視察で見えた課題（将来計画と対話）】

長期的な活用の見通しがまだ十分に描かれていない。特に、長い区画の将来像は未整備であり、早期からの検討が望まれる。また、地域との対話については、現在は主に三つの公民館が中心で、商工会や学校、保育園、スポーツ団体、若者や高齢者など、より広い層の意見を十分に拾い切れていないとの指摘があった。わかりやすい情報発信と、開かれた意見募集の仕組みづくりが重要である。

【5. 期待される効果と可能性】

屋内スポーツ施設は雨天時でも利用でき、園や学校の行事、市民の運動の場として大きな価値を持つ。長い区画については、地面への負荷を抑えた範囲で、ドローンの練習、雨天時の部活動、災害訓練、可動式のスケートボード用ランプの設置、歩行やジョギングのコースづくりなど、工事を最小限にする活用が現実的である。これらは初期費用を抑えつつ試行しやすい点で利点がある。

【6. まとめ】

長い区画の活用は、現在の制約を守りつつ、実行しやすい取り組みから段階的に進めるのが現実的である。仮設や可搬の備品を基本に初期投資を抑え、運用しながら改善していく。こうして実績を積み重ねれば、15年後を見据えた本格活用への道筋も明確になるだろう。今回の視察を通じ、この施設は地域に資する場となり得る一方で、暑さ対策、わかりやすい情報公開、そして多くの人が参加する話し合いの仕組みが不可欠であることを再確認した。市としては、利用開始後のデータ公開と継続的な改善に努め、市民にとって安全で使いやすい施設へと育てていくことが求められる

産業経済委員会行政視察報告書（感想等）
※委員ごとに作成し報告書に添付

委員名 川内 賢幸

1 視察の感想

◎都城市高崎一般廃棄物最終処分場クリーンコアたかざき跡地活用について

当該施設の視察は、会派による視察依頼２度目である。前回と違って、埋立地Ⅱについては、原状復旧工事が進められており、土壌への散水設備の施工が終わっており、地域要望であるテニスコートやフットサルに利用できるインドアスポーツ施設の工事が着実に進んでいた。

埋立地Ⅰについては、依然として用途廃止後の原状が続いており、巨大な屋根付施設ではあるが、今後の活用には多くの課題もあり、はっきりとしたビジョンが見通せないのが実情である。

適正閉鎖に向けては、最低でも 15 年必要であり、10 年は散水を継続する必要がある。施設の性質上、土壌に過度な不可もかけられないことから、原状での活用には多くの課題があることを改めて確認した。

2 視察の成果及び本市議会への反映等

埋立地Ⅱについては、年度内にインドアスポーツ施設が完成することから、地域を始めとする市民の利活用が進むことが期待できる一方、夏場の暑さ対策などが課題として浮きぼりになっている。

対策としては、今後の活用状況や市民の声を聞きながらの判断となると思うが、大型換気設備や空調の設置など、予算を伴う対応が必要である。

埋立地Ⅰについては、その施設の巨大さから原状での活用には非常に制限がある。特に、散水をしないといけないため、その影響を受けそうな事業体では活用できない。

運送関連の活用も考えられるが、上記の点において厳しい。民間に譲渡することも考えられるが、適正閉鎖後でなければ条件は厳しくなる。

検討すべきは、最低限の整備で、ほぼ原状のまま活用できる策を検討していくことである。例えば、ドローン講習や各種スポーツの屋内練習場、災害時の訓練施設など、様々考えられる。

しかしながら、これらを進めるにしても地域住民の声を聞く努力を怠ってはならない。視察の際に、埋立地Ⅰについては、適正閉鎖の 15 年ごろに協議を始めたいとの説明があったが、それでは遅いと感じるため、現段階から多方面に働きかけを行いながら、この施設の将来像を協議、模索していくべきである。

今後も、公共移設のあり方については、市民にとって最大限の恩恵がある形をとれるよう注視していく。

産業経済委員会行政視察報告書（感想等）

※委員ごとに作成し報告書に添付

委員名 楠見 千穂子

1 視察の感想

施設の中は暑く、扇風機・ミストは設置予定であるがエアコンは未定とのことでしたが、暑くて市民の利用があるか考えさせられた。

ミニバレーコート4面、テニスコート、フットサルコートが競技できる施設であり、屋内競技場であり天候に左右されないこともあり、幼稚園、保育園の運動会など利用でき素晴らしい施設だと思いました。

2 視察の成果及び本市議会への反映等

市民にとって利用しやすい施設になれば、市民への恩恵となる。

埋立地Ⅰは、長さを活かしスケートボードの練習場、競技場になれば若者支援となり、若者に恩恵のある施設となる。

産業経済委員会行政視察報告書（感想等）

高崎最終処分場管内視察報告

委員名 坂元 唱子

1 視察の感想

高崎最終処分場を視察しました。地域住民の要望により、クローズドシステムを採用し、被覆型構造で廃棄物の飛散や雨水の流入を防いでおり、臭いがほとんどないことが大きな特徴です。すでに廃棄物の受け入れは終了しており、埋立地にはブロック片や瓦礫、焼却灰などが埋められています。

埋立地Ⅰ、Ⅱの今後の活用について視察しました。Ⅱについては、今年度中に人工芝を敷いてインドアスポーツ施設として完成予定で、R8年4月より利用できるようになるとの事です。実際にはわずかに灰のような臭いが感じられましたが、ほぼ快適な環境でした。ただ、視察で最も感じたことは、「暑さ」対策です。夏場にスポーツを行う場合、熱中症の危険が高いと感じました。現時点では、扇風機等で対応するとの事でしたが、長時間の利用や市民の健康を考えると、より効果的な暑さ対策が必要だと感じます。

埋立地Ⅰについては、今後まだ約10年間は水処理が必要との事で、活用方法はまだ未定です。Ⅱに比べると広大な面積を有しており、市民のニーズや地域の特性を踏まえた活用策をしっかりと検討する必要があると感じました。

2 視察の成果及び本市議会への反映等

今回の視察で、施設の構造や環境対策の成果を確認できた一方、夏季利用時の暑さ対策や長期的な跡地活用について課題が明確になった。特に、熱中症リスク軽減策や多くの市民の方に利用して頂けるような計画作りが重要であることが分かりました。

暑さ対策の強化として、インドアスポーツ施設完了前に、空調、遮熱システムや換気設備などの導入を検討すべきではないかと思う。

また、埋立地Ⅰを含む全体の活用方法について、10年後20年後を見据え、あらゆる年代の市民の方からの意見募集やワークショップ開催も必要と考えます。

環境に配慮したクリーンなイメージではありますが、今後も環境への影響を重視し、地域住民への定期的な報告を今後も持続していく必要があると感じ、市議会としてもしっかり注視していきたいと思います。